Н M 講 習

締役)が実技を中心に講 士会、三浦工匠店代表取

度をつけた繋ぎ)による

手方向の継ぎ)、仕口

義を行った。

習会は11日、福島市の県 ジ・マネージャー育成講 物の修復保全」をテーマ た。今回は「歴史的建造 建設センターで開かれ に、三浦藤夫氏(県建築 27年度第3回ヘリテー

明した。50通りの継手(長 「大工覚え」を中心に説 ミナーに20数年前から通 っており、そこで覚えた を伝える「日本建築」セ となって日本建築の技術 三浦氏は文化庁が中心 らはその仕組みに感嘆の デルを外すと、受講者か た実物大の継手・仕口モ ても実演。その後、古民 生とともに解体・組み立 家や大阪城に使われてい 木造モデルを使い、受講



三講 浦師 氏の

継手・仕口を説明

角 受講生も積極的に参加し 作る古色付けも実演し、 ニカワ、柿渋等を混ぜて 古道具の使い方や顔料と 声が漏れた。 槍鉋(やりかんな)など 大鉞(おおまさかり)、 もので、スギやクスノキ ヒノキは胸毛からできた も示している。 もので、スギはひげから、 社)、マキは棺桶と用途 は船、ヒノキは宮殿(寺 自らの体毛を変えた

この後、市内大森にあ スギは700年、マツは 木材は耐用年数が長く

ていた。

用するものは南側の斜面 に持たせるためには、山 ている。だが、そのよう 1000年持つ」と話し には「(法隆寺は) あと を丸ごと買い、南側に使 から、北側の個所には北 となる。 りを計算した厚さが必要 る。数百年持たせる寺社 計算すると、年数が分か どにもなる。この減りを などの建築物は、この減

きとしている。 に生えた木材を使用すべ は925でとに右から左へ い、ろ、は」、上から下 ■番付 大工の板図に チオールを放出するとい とこれを放出する。その ~400%ほどの吸水が 際にヒノキなどはヒノキ あるが、空気が乾燥する ■吸水 木材は300

大きく100年で6%ほ が生じる。破風はこれが とふるところがある。 とふっていくものや、左 年で5分ほどの「風食」 ては下から「1、2、3」 から右に「い、ろ、は」 てあり、これにより建物 をつくるが、地域によっ に「1、2、3」と打っ ■風食 木材は100 頭巻(かしらまき)釘が あるため、価格も1本5 すべて手打ちで仕上げて 巻頭(まきがしら)釘、 には頭部が巻かれている 00円ほどと高価。 和釘 は500~1000年。 約5年なのに対し、和釘 ■和釘 耐用は洋釘が



鉋なが使い方学ぶ

もの展示物に触れた。 雄氏が集めた2000点 る安藤大工道具館に移動)、安藤組会長 · 安藤錬 800年、ケヤキは50 0~600年持つといわ れており、法隆寺の伽藍 梁がその古材にカンナを 改修時には、西岡常一棟

るとスサノオノミコト そして修理が終了した際 かけると、ヒノキの香り

がなおも漂ったという。